資料１

小学校規模適正化アンケート

大崎上島町小学校規模適正化検討委員会における参考資料としますので、次の質問に令和８年２月10日（火）までにお答えください。

＊必須の質問です

１　教育の充実のためには、学級の人数は何人が理想と考えますか＊

- ○ 35人
- ○ 30～35人未満
- ○ 25～30人未満
- ○ 20～25人未満
- ○ 15～20人未満
- ○ 10～15人未満
- ○ 10人未満

２　その人数が適当と考える理由を記述してください。＊

回答を入力

送信　　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 大崎上島町教育委員会 内部で作成されました。- フォームのオーナーに問い合わせる

このフォームが不審だと思われる場合 報告

Google フォーム

令和８年３月 16 日

大崎上島町教育委員会

小学校規模適正化アンケート結果について

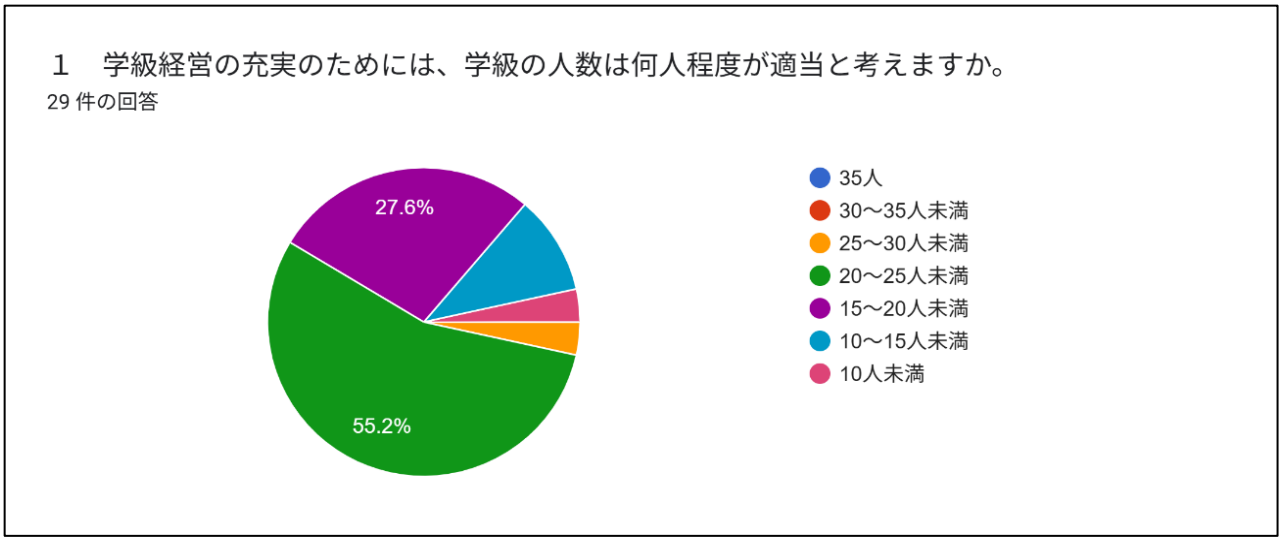
１　目　　的　大崎上島町小学校規模適正化検討委員会における参考資料とするため、 大崎上島町立小学校に勤務の教職員が考える「適切な学級人数」を把握する。

２　実施期間　令和８年２月３日（火）～２月 10 日（火）

３　対 象 者　大崎上島町立小学校勤務　教職員　29 人

４　実施方法　Google フォーム

５　結　　果



【25～30 人未満】

・少ない人数だと考えに深まりがでないことがあるから。逆に 30 人より多いと目を配るのが大変だとこれまでの経験で感じたから。

【20～25 人未満】

・学力差も広く、特性も様々な児童が増えているので少人数でありながらも集団生活を学ぶことができる人数 20～25 人が適していると思う。

・指導形態として個別の支援も行いつつグループでの交流等もできるため。学習活動としては、10 人以下だと体育で言えばボールゲームでチームに分かれて活動することができない。また、英語等語学の学習で会話のやり取りができにくい。

・児童相互の人間関係づくりの面からもある程度人数がいるほうが、児童の選択肢が増えて良いと考える。現在のやり方で、学級での児童数だけを考えるならば、現在の大崎小学校の規模が適当であると考える。
・教員の働き方改革も考えて、宿題やノート等を見る量がよいと思う。教員がクラスの子供一人一人に目が届き、子供一人一人の様子が把握でき、子供と心を落ち着けて話ができる環境と考えるから。
・児童が、友だちのいろいろな考えや意見にふれることができるから。教員が、一人一人の学習理解度や状況、些細な気持ちの変化を把握しやすいから。
・いろんな組み合わせで班を編成することができるから。人数が少なすぎると人間関係が固定され、授業において多様な意見が生まれにくいから。体育のとび箱など安全への配慮が必要な授業において、20 人程度だったら教員の目が届くから。
・20 人前後がよいと思う。少ないとブロック（低・中・高）で行うなどの工夫をしないと体育などの種目で学習しにくいことが起こる。委員会やクラブをするときにも、人数が少ないとできないものがあると思う。
・もし、24 人位なら４人の６班できる。多様な活動をするのに、この人数ぐらいは、必要だと思う。また、運動会は、３学年合同で行っているが、50 人前後児童がいると２学年ずつできる。シラバスや発達段階を考えると、２学年がふさわしい。
・人数が少なすぎるとグループが固定化され活動が限定されたり、考えが深まりにくかったりすることがあるので、１学級 20～25 人程度がよいと考えます。
・人数が少なすぎると意見の幅が広がらないし、多すぎても目が届きにくいと考えるから。
・子供たち一人一人に目が届く限界だと考えるからです。４～５人１グループを組んでも、５グループ程度になり学習を進めるうえでちょうどよいと考えるからです。
・一人一人に行き届きやすいからです。30 人を超えると、どうしても全員を細かく見ることが難しくなると考えます。

支援を必要とする児童が増えている現状、また対応に難しさを感じている職員が増えてきた今、児童一人一人の特性や困り感を把握し、個別に対応する時間を確保するには、クラス人数は少ないほうがよいのではないかと思います。人数が多いと、どうしても対応が後手に回り、児童本人も周囲も負担を感じやすくなるのではないかと思います。

一方、人数が少なすぎると、学びが成立しにくくなるという課題もあります。例えば、グループ学習や話し合い活動、体育などでの球技等集団スポーツ、役割分担を伴う行事などでは、ある程度の人数がいないと、多様な意見が出にくかったり、活動が成立しなかったり、同じ児童に負担が集中することが考えられます。

そのため、20 人前後という規模は、個別支援と集団活動の両立がしやすいバランスの取れた人数だ

と考えます。

・個々に合わせた指導をしつつ、児童が充実した学校生活を送ることができそうだから。

・これ以上の人数が好ましくないと考えるのは、自らが学級担任をしてきた経験から、この人数が全員に目が届き、確実に指導できる人数であったから。

これ以下の人数であっても、特に困る場面はないと考えるが、学年人数が２人以下になるのは避けるべきである。３人以上いれば、組み合わせが複数通り考えられるから。

・３～４人のグループが６グループ程度できるので、話し合いをするときいろいろな考えを交流することができる。そのことにより考えが広がったり深まったりするので、より深い学びができると考える。体育でドッジボールなどのゲームをするのにちょうどよいと思う。

・個に応じた指導を充実させようと思うと少人数の方が手厚く指導できる。子供の実態が昔とは変わってきているので、発達障害の子が増えている状況に鑑みて、副担任の配置をお願いしたいと思います。

集団として学び合うには、適当と思います。グループを作った際にも、いくつか出き、グループでの意見も交流しやすいです。また、多様な意見も出る人数と思います。体育の授業で、チームに分かれてゲームをしたりするにも適切だと思います。担任が全員を把握できる人数にはかぎりがありますが、25 人くらいまでなら、（自分の経験からも）できると思います。

【15～20 人未満】

・人数が多いときめ細やかな指導が行き届きにくくなると感じている。少ない場合も思考の広がりや深まりという面について課題があると思う。ただ、人数が多いよりは少ないほうが、個人的には学習・生活指導が行いやすいと感じている。

・単式学級の場合、多すぎると児童へ目が届きにくくなったり、課題をチェックしたりする時間の確保など十分にできないことがあるように思われます。また、少なすぎると多様な意見の交流ができにくく、体育でのゲームの人数が足りないためにドッジボールなどを行うことができないからです。（複式だからそこ、育ってきた力もあるので、複式の良さも考えてほしいと思います。）

・特別な支援を必要とする児童も増えている中で、担任１名で児童の資質能力を付ける、伸ばしていくには、この人数が適切だと思います。

・児童の学習内容の把握や個の課題への取り組みなどを考えるとこの人数が適正と考えます。

・4 人くらいのグループが複数でき、グループの中でも学級の中でも多様な意見が出る可能性が高いので、交流や練り合いなどができるのでいいと思う。また、教卓から見渡した時に、ひと目で確認できるくらいの人数であると思う。ただ、少人数には少人数の良さもあると思う。

・グループ活動ができ、いろいろな考えを交流できる、また教員も児童の様子を把握しやすいと思う

・人数が少なすぎると、意見の広がりが少なく、人間関係の固定化がある。15 人くらいいれば、集団として学習できることが広がる。
・目が行き届き、ペア学習、グループ学習がしやすい人数だと思う。

【10～15 人未満】
・子供同士のかかわりも適当と思われるし、担任の業務も適当と考えられる。
・大人数すぎると、目が行き届かないから。少なすぎても、人間関係が偏るから。
・しっかりと個に当たることができ、グループ活動や体育でのグループ競技もできるため、教科指導等がしやすいため

【10 人未満】
・10 人未満でも、15 人未満でも、よいと思います。
大切なことは、一人一人が大切にされる環境がつくれること、個別最適化の視点で学びの場をつくれること、子供同士がペアや少人数で自分の思いを本音で伝え合ったり相手の思いを受け取り合ったりできること、そういう場を多くつくれること、またときには別の集団、環境や場面で表現し合う場があること。
そして、重要なことは、指導者が子供一人一人の可能性を引き出すための見取りをし、ファシリテーターとして子供の発想や力を引き出すことができるような余裕をもてること。さらに、集団の育ちを応援していけること。
このようなことから、指導者が、本当に見取りができ、子供のスキーマに合わせて個別や集団を育てることのできる、多すぎない少人数がよいと考えます。
大崎上島町の子供たちの学びや育ちを応援しています！